

海と祈りのフォリー

計画敷地は平和記念公園内の靈域ゾーンに位置しており、沖縄戦の歴史を色濃く残す。

特に6月の慰霊の日には県内外から多くの来場者が訪れ

様々なルーツの人、それぞれの鎮魂の場として機能している。

慰霊塔エリアの先にあるこの休憩所は、**人々の憩いの場**であり

急な雨から身を守るとともに、誰もが**個々の想いを抱けるような場**でありたい。

摩文仁の丘を通り抜ける風と光、**南西の海へと開ける眺望を大切にし**

日射と雨をしのぐ素直な架構が利用者を迎える。

湾曲した壁と屋根のシンプルな構造が、人々の**意識を自然と海へ導く**。

靈域ゾーンからの抜けを完全に区切るのではなく

園路の遠くからでも期待感を膨らませながら休憩所に足が向くような佇まいとした。

外壁はコンクリートの素体を見せ、**原始的で厳かな雰囲気**を大切にした。

新たに生まれる休憩所でありながら、その地に昔からある存在のように

この先の長い沖縄の歴史を紡ぐ。来場者の休憩所として愛され、周囲の靈域ゾーンと調和しながら

遠くから聞こえる波の音とともに**「命-戦」を静かに感じ**ることができる。

沖縄の雄大な風景と向き合いながら、戦没者へ思いを馳せることができる場所

そして歴史と向き合い今と未来を考えることができる場所を目指した。



■祈りの場としての休憩所

平和の壁エリアにある平和の広場で、一人ベンチに座り海を見つめる人がいた。誰かと話すわけでもなく、ただ静かに海を望む姿が印象的だった。この地に想いを馳せ、戦没者たちのことを考えるうちに行動を忘れ、ただじっと海を見つめる。それがこの地に求められていることの「一つ」かもしれない。

公園を訪れる人は、様々な想いを抱きながら園内を散策する。そのような人々を静かに受け止めながら、ここを訪れた個々人が過去の悲劇や未来の希望に想いを馳せられるよう、静寂の中で海を望む休憩所である。

■ダイアグラム



計画敷地は霊域ゾーンと海の境界に位置する。休憩所を箱のように仕切るのではなく、海と霊域ゾーンの2つの方向性でエリアを分け、曲線の壁によって視線が自然と海へ向かうようにした。霊域ゾーン側では、湾曲した外壁側にベンチを掘り込み、木漏れ日の中に小休止ができる場所とする。

■断面計画 S=1/150

南西の海へと眺望を開き、風を通しながら、日射と雨を凌ぐ架構。

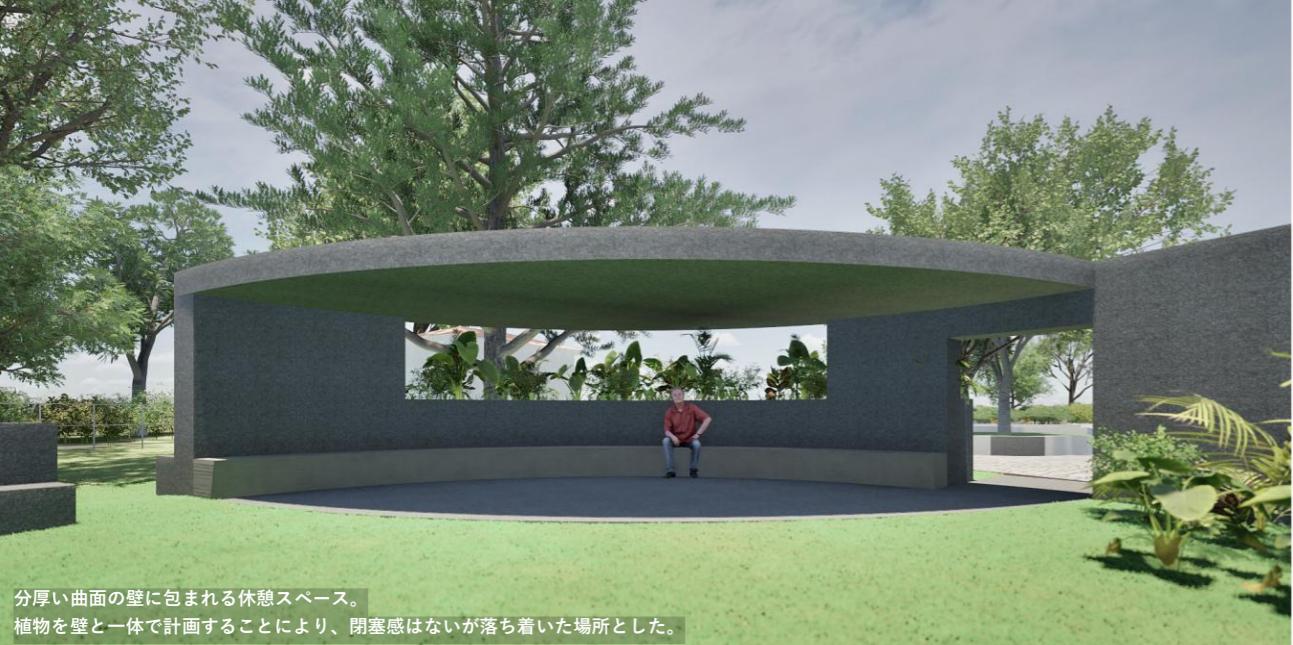
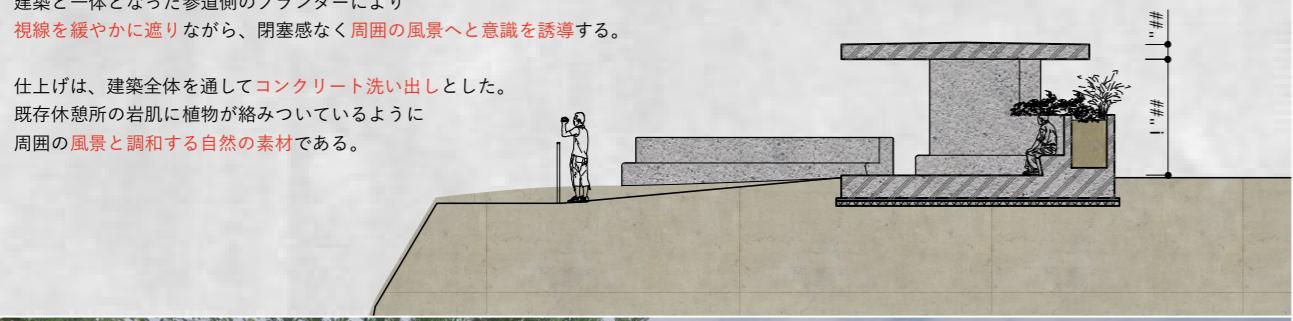
建築と一緒にした参道側のプランターにより

視線を緩やかに遮りながら、閉塞感なく周囲の風景へと意識を誘導する。

仕上げは、建築全体を通してコンクリート洗い出しとした。

既存休憩所の岩肌に植物が絡みついているように

周囲の風景と調和する自然の素材である。



■配置図兼平面図 S=1/150

